

1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

<テーマ> 日常生活にみられる場面をもとにして，問題提示の工夫をした取組
 (白石市立白石第一小学校)

1 実施単元

『変わり方しらべ』 [東京書籍 4年下巻p46～52]

2 単元のねらい

伴って変わる二つの数量について，それらの関係を表を用いて調べ，式に表して，二つの数量の関係を明らかにする能力を伸ばす。

3 指導改善の手立て

日常生活の中では，関数の考え方を活用して，目的に応じて合理的に判断することが必要な場面がある。本時では，遊園地の乗り物券を買う場面を想定して学習を進める。「乗り物に乗る回数」と「料金」の関係について，児童に問いを出させ，児童が主体的に学習問題を設定できるように促す。児童の反応をもとに学習問題を設定することで，問題解決への意欲を高めていく。

とく子さんは，遊園地に遊びに来ました



・乗り物1回券	250円
・乗り放題券	2800円

・たくさん乗り物にのりたい ・どっちがとくかな？

乗り物に乗る回数と料金の関係を調べて，とく子さんにアドバイスしよう。(1回券を買った場合)

・表に表す。

回数(回)	1	2	3	4	5
料金(円)	250	500	750	1000	1250

- ・式に表す。
回数を ，料金を とすると
 $250 \times =$
- ・もし，乗り物に10回乗ったら
 $250 \times 10 = 2500$
- ・もし，11回乗ったら
 $250 \times 11 = 2750$ 乗り放題券
- ・もし，12回乗ったら 2800
 $250 \times 12 = 3000$

遊園地のスタッフになったつもりで，とく子さんにアドバイスしよう。

4 指導の実際



電子黒板で問題場面を提示することで，児童の興味・関心や日常の経験を引き出しながら，学習意欲を高めることができた。児童は，問題場面と日常の経験とを結び付けて，伴って変わる二つの数量の関係について気付き，主体的に学習問題を捉えることができた。(左写真:電子黒板で遊園地の乗り物券に関する問題場面を提示している様子)